

平成28年度倉吉市・東伯郡小中学校中堅教師研修会概要

- 1 趣 旨 大量退職・大量採用の時代を迎える中で、中部地区の小中学校では、中堅教員の割合が少なく、講師を含めた若手教職員の割合が増加している。今後の中部地区学校教育を担っていく教務主任、研究主任等の中堅教員の自覚と力量を養成していくことは喫緊の課題である。

本研修会は、こうした考え方から、将来の学校教育を担う中堅教員の能力と意欲を開発することを目的とする。

- 2 日 時 平成28年7月16日（土）午前9時30分～12時
3 会 場 交流プラザ 第1研修室
4 参加者 倉吉市・東伯郡小中学校に勤務する教職員で希望する者 34名
5 内 容

(1) 開会あいさつ 倉吉市教育委員会 福井伸一郎 教育長

(2) 説明 「学校リーダー（中堅教師）の先生に期待すること」

講師：倉吉市立東中学校 小椋博幸 校長

- ・我々の使命は、子どもに力をつけていくことであり、そのためにはひるまずにチャレンジしていくことが大切である。新しい時代に必要となる人材育成が重要かつ急務である。

(3) 講演 「次世代の学校・地域」の創生のために

～地域と学校の連携・協働を中心として～

講師：文部科学省初等中等教育局 藤原一成 視学官

- ・今先生方が行っている指導は間違っていないし、自信を持ってやるべきである。日本の公教育は世界一である。
- ・ほとんどの学びは人間関係から発生してくる。今の子ども達の問題は人間関係の少なさから発生することがかなりの部分を占めている。
- ・馳プランの本懐は、よりよい社会を作るという目標のもと教育課程を介して地域社会とつながる学校を創るということである。
- ・中教審の考えをブレイクダウンし、カスタマイズし、アレンジしていくことが大切である。
- ・公立学校の強みは地域があること。地域は資源。学校内に閉じないで、地域や各関係機関と心をあわせて協働することで子どもは迷いなく育つ。「心あわせ」をする場をつくってほしい。
- ・信頼できる意味のある大人との関わりをどれだけ持つことができるかが、子どもの将来に決定的な意味を持つ。
- ・予測不能な将来に生きる子ども達を育てる教師として、「考えるな、やってみろ。ただし、仲間と一緒にやれ。失敗は会社の財産になる。」というグーグルの考え方は大いに参考にしたい。子どもの失敗を保障したい。
- ・多様なものを広く受け容れて、みんなで話し合いながら1つのことを創っていく子どもを育てたい。



(4) 閉会あいさつ 東伯郡地教委連絡協議会 土海孝治 会長